

## 平成30年産春植えばれいしょの作付面積、収穫量及び出荷量

- 全国の春植えばれいしょの収穫量は、前年産に比べ6%減少 -

### 【調査結果の概要】

#### 1 全国

作付面積は7万4,000haで、500ha（1%）減少した。

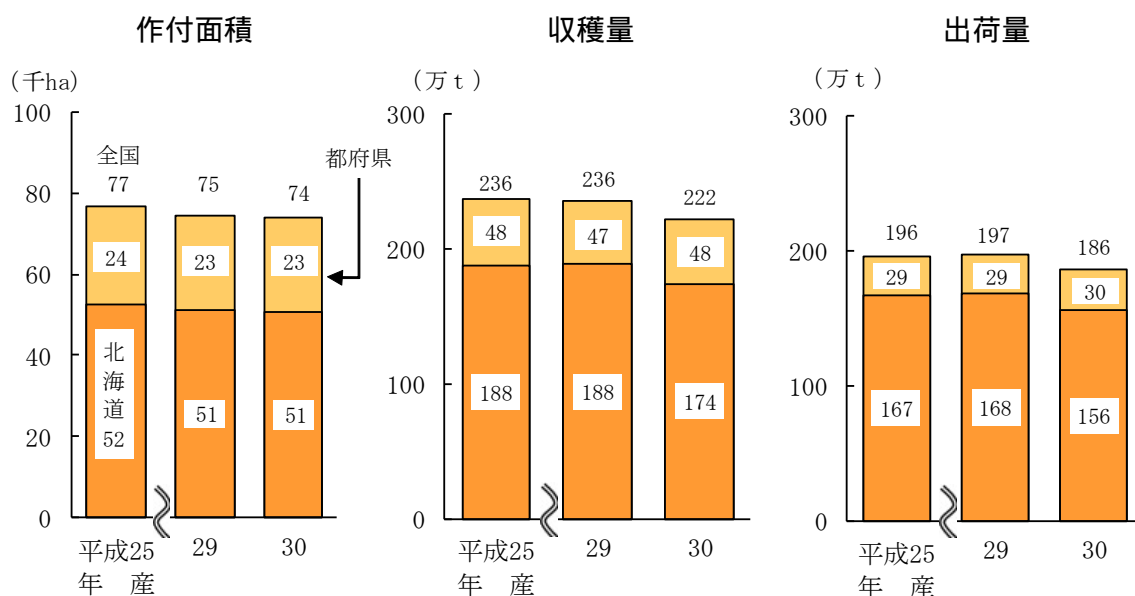
収穫量は221万5,000 t、出荷量は185万7,000 tで、前年産に比べそれぞれ14万 t（6%）、10万9,000 t（6%）減少した。

#### 2 北海道

作付面積は5万800haで、500ha（1%）減少した。

収穫量は174万2,000 t、出荷量は155万9,000 tで、前年産に比べそれぞれ14万1,000 t（7%）、11万9,000 t（7%）減少した。

図1 春植えばれいしょの作付面積、収穫量及び出荷量（全国）



注：表示単位未満を四捨五入しているため、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

○ 本資料は、平成30年12月6日に公表した『平成30年産春植えばれいしょの作付面積、収穫量及び出荷量（都府県）』に北海道の数値を加えた全国の作付面積、収穫量及び出荷量である。

本資料は、農林水産省ホームページ「統計情報」の次のURLから御覧いただけます。  
【 [http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou\\_yasai/index.html#y5](http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_yasai/index.html#y5) 】

◎ 調査結果の主な利活用

- ・ 野菜を安定的に供給するための生産努力目標の策定及びその達成に向けた各種対策の推進のための資料
- ・ 農業保険法（昭和22年法律第185号）に基づく畑作物共済事業の適正な運営のための資料

◎ 累年データ

春植えばれいしょの作付面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

1 全国

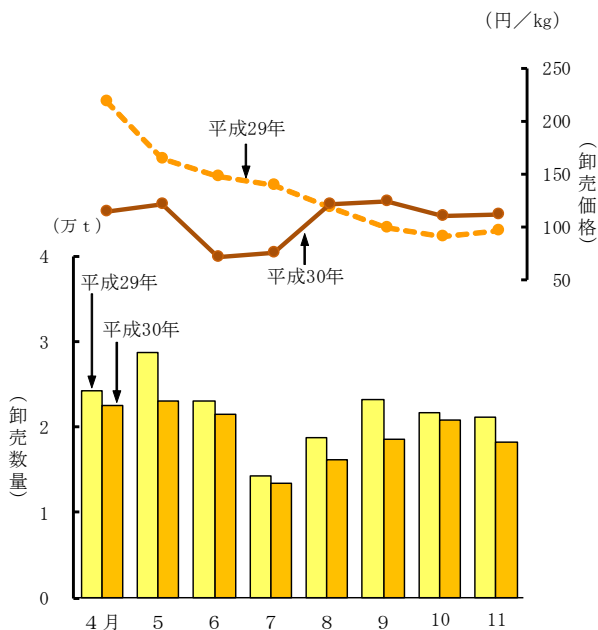
2 北海道

年 産	1 全国				2 北海道			
	作付面積	10 a 当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量	作付面積	10 a 当たり 収 量	収 穫 量	出 荷 量
	ha	kg	t	t	ha	kg	t	t
平成21年産	80,300	3,000	2,412,000	1,967,000	54,400	3,480	1,893,000	1,673,000
22	79,600	2,810	2,237,000	1,824,000	54,100	3,240	1,753,000	1,549,000
23	78,000	3,000	2,339,000	1,925,000	53,100	3,470	1,843,000	1,634,000
24	78,300	3,130	2,447,000	2,021,000	53,400	3,630	1,938,000	1,716,000
25	76,900	3,070	2,360,000	1,963,000	52,400	3,580	1,876,000	1,668,000
26	75,500	3,190	2,409,000	2,019,000	51,500	3,720	1,916,000	1,715,000
27	74,600	3,170	2,365,000	1,974,000	51,000	3,740	1,907,000	1,698,000
28	74,600	2,890	2,158,000	1,787,000	51,200	3,350	1,715,000	1,521,000
29	74,500	3,160	2,355,000	1,966,000	51,300	3,670	1,883,000	1,678,000
30(概数)	74,000	2,990	2,215,000	1,857,000	50,800	3,430	1,742,000	1,559,000

資料：農林水産省統計部『野菜生産出荷統計』

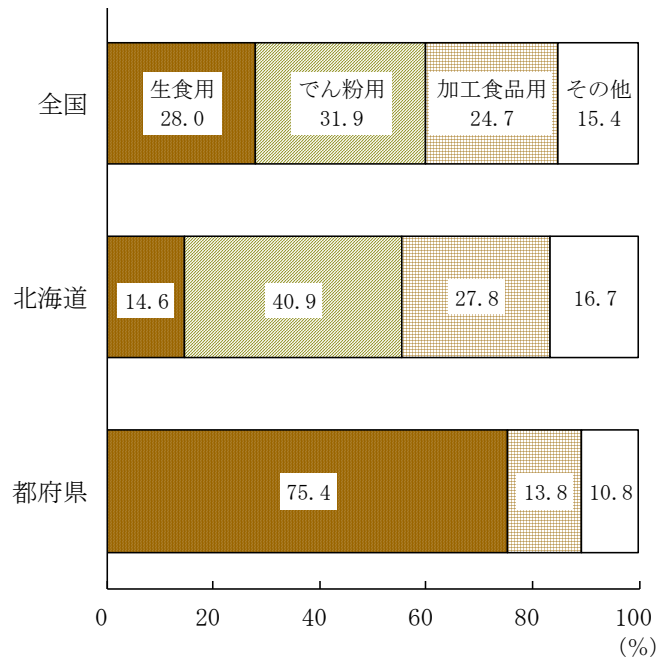
◎ 関連データ

1 ばれいしょの卸売数量及び卸売価格の推移（主要卸売市場）



資料：農林水産省統計部『青果物卸売市場調査（日別調査）』  
注： 全国の主要都市に所在する主要な中央卸売市場の日別値を加算し算出したものである。

2 ばれいしょの用途別消費量割合（平成28年産）



資料：農林水産省政策統括官『いも・でん粉に関する資料』  
注： 1 でん粉用は北海道のみである。  
2 その他は種子用、飼料用等である。

## 【調査結果】

### 1 全国

- (1) 作付面積は7万4,000haで、500ha（1％）減少した。
- (2) 10a当たり収量は2,990kgで、前年産に比べ170kg（5％）下回った。  
これは、作付けの多い北海道において、6月以降の天候不順により、着いも数が少なく、小玉傾向となったためである。
- (3) 収穫量は221万5,000t、出荷量は185万7,000tで、前年産に比べそれぞれ14万t（6％）、10万9,000t（6％）減少した。
- (4) 都道府県別にみた収穫量割合は、北海道が全国の約8割を占めている。

### 2 北海道

- (1) 作付面積は5万800haで、500ha（1％）減少した。
- (2) 10a当たり収量は3,430kgで、前年産に比べ240kg（7％）下回った。
- (3) 収穫量は174万2,000t、出荷量は155万9,000tで、前年産に比べそれぞれ14万1,000t（7％）、11万9,000t（7％）減少した。

図2 春植えばれいしょの作付面積、収穫量及び出荷量の推移（全国）

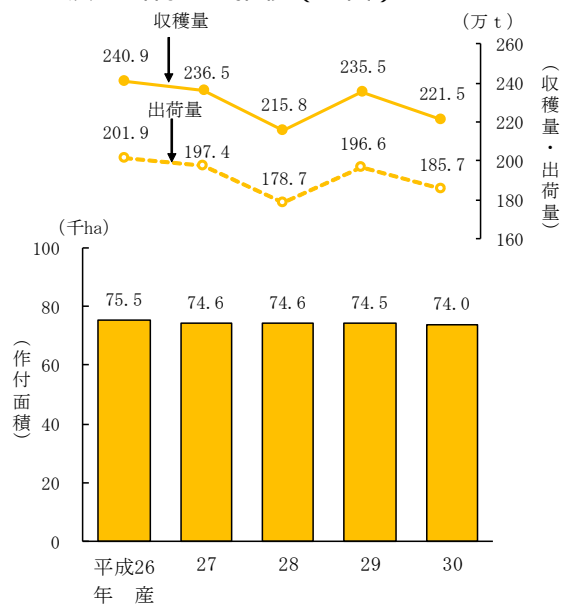


図3 春植えばれいしょの都道府県別収穫量

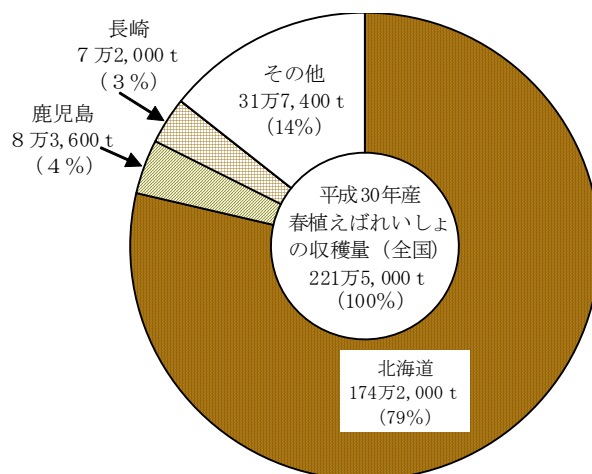


表 平成30年産春植えばれいしょの作付面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

区分	作付面積	10a当たり収	10a当たり量	収穫量	出荷量	対前年産比				(参考) 対平均収量比
						作付面積	10a当たり収	収穫量	出荷量	
全 国	ha	kg	t	t	%	%	%	%	%	
全 国	74,000	2,990	2,215,000	1,857,000	99	95	94	94	96	
うち 北海道	50,800	3,430	1,742,000	1,559,000	99	93	93	93	95	

注：「(参考) 対平均収量比」とは、10a当たり平均収量（原則として直近7か年のうち、最高及び最低を除いた5か年の平均値）に対する当年産の10a当たり収量の比率である。

## 【統計表】

平成30年産春植えばれいしょの作付面積、10a当たり収量、収穫量及び出荷量

全 国 都 道 府 県	作付面積	10a当たり 収量	収 穫 量	出 荷 量	対 前 年 産 比				(参考)
					作付面積	10a当たり 収量	収 穫 量	出 荷 量	対平均 収量比
	ha	kg	t	t	%	%	%	%	%
全 国	74,000	2,990	2,215,000	1,857,000	99	95	94	94	96
北 海 道	50,800	3,430	1,742,000	1,559,000	99	93	93	93	95
青 森	725	2,210	16,000	12,000	97	89	86	87	99
福 島	1,050	1,720	18,100	2,370	98	96	94	92	96
茨 城	1,550	2,980	46,200	38,800	101	102	103	104	103
千 葉	1,200	2,680	32,200	26,700	99	109	108	108	115
長 野	1,100	1,950	21,500	1,770	99	101	100	98	95
静 岡	526	2,640	13,900	11,900	98	119	117	120	113
三 重	185	1,230	2,280	1,440	102	111	113	113	88
岡 山	201	1,190	2,390	410	96	95	92	91	97
広 島	357	1,350	4,820	1,250	100	101	101	105	96
佐 賀	118	2,280	2,690	1,930	97	111	108	112	112
長 崎	2,610	2,760	72,000	62,800	101	102	103	103	99
熊 本	537	2,280	12,200	8,980	97	107	103	110	109
宮 崎	486	2,240	10,900	10,300	97	90	88	89	90
鹿 児 島	3,960	2,110	83,600	76,900	103	106	109	111	107

注：1 都府県の数値については、平成30年12月6日に公表したものである。

2 「(参考)対平均収量比」とは、10a当たり平均収量(原則として直近7か年のうち、最高及び最低を除いた5か年の平均値)に対する当年産の10a当たり収量の比率である。

## 【調査の概要】

### 1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の作況調査の野菜調査として実施したものであり、春植えばれいしょの作付面積、収穫量、出荷量等の現状とその動向を明らかにし、食料・農業・農村基本計画における野菜を安定的に供給するための生産努力目標の策定及びその達成に向けた各種対策の推進、農業保険法に基づく共済事業の適正な運営等のための資料を整備することを目的としている。

### 2 調査の対象

#### (1) 調査の範囲

全ての都道府県を調査対象とする全国調査(直近では作付面積調査及び収穫量調査ともに平成28年産)を作付面積調査は3年、収穫量調査は6年ごとに実施しており、中間年にあつては全国調査年における作付面積の全国値のおおむね80%を占めるまでの上位都道府県、野菜指定産地に指定された区域を含む都道府県、畑作物共済事業を実施する都道府県又は特定野菜等供給産地育成価格差補給事業を実施する都道府県を調査対象(主産県)としている。

#### (2) 調査対象者の選定

##### ア 関係団体調査(全数調査)

主産県において、春植えばれいしょを取り扱っている全ての農協等及び野菜生産出荷安定法(昭和41年法律第103号)第10条第1項に規定する登録生産者とした。

##### イ 標本経営体調査(標本調査)

都府県ごとの収穫量に占める関係団体の取扱数量の割合が80%に満たない都府県については、2015年農林業センサスにおいて、調査対象品目を販売目的で作付けし、関係団体以外に出荷した農林業経営体から無作為に抽出をした。

標本の大きさ(標本経営体数)については、全国の目標精度(2~3%)が確保されるよう、春植えばれいしょの全国収穫量に占める都道府県ごとのシェアを考慮して設定した10a当たり収量に関する目標精度に基づき、必要な標本経営体数を算出した。

### (3) 調査対象者数

関係団体調査			標本経営体調査				
団体数 ①	有効回収数 ②	有効回収率 ③=②/①	母集団の大きさ ④	標本の大きさ ⑤	抽出率 ⑥=⑤/④	有効回収数 ⑦	有効回収率 ⑧=⑦/⑤
団体 440	団体 353	% 80.2	経営体 14,510	経営体 1,282	% 8.8	経営体 620	% 48.4

注：1 「有効回収数」は、回収があったもののうち、当年産において作付けがなかった標本経営体等を除いた数である。  
2 北海道の標本経営体調査は、収穫量に占める関係団体の取扱数量の割合が80%を超えるため実施していない。

## 3 調査事項

### (1) 関係団体調査

春植えばれいしょの作付面積及び出荷量

### (2) 標本経営体調査

春植えばれいしょの作付面積、出荷量並びに自家用及び無償の贈与の量

## 4 調査期日

収穫・出荷終了時

なお、春植えばれいしょの主たる収穫期間は、次のとおりである。

区分	主たる収穫期間
都府県	平成30年4月～8月
北海道	平成30年9月～10月

## 5 調査方法

本調査は、関係団体に対する往復郵送調査又はオンライン調査及び標本経営体に対する往復郵送調査により行った。

## 6 集計方法

### (1) 都道府県値

#### ア 作付面積調査

関係団体調査結果を基に、職員又は統計調査員による巡回・見積り及び職員による情報収集により補完している。

#### イ 収穫量調査

関係団体調査及び標本経営体調査結果から得られた10a当たり収量に作付面積を乗じて算出し、必要に応じて統計調査員による巡回又は職員による情報収集により補完している。

出荷量の集計は、関係団体調査結果から得られた出荷量及び標本経営体調査結果から得られた10a当たり出荷量等を基に算出している。

### (2) 全国値

本年産調査は主産県調査年に当たることから、全国調査を行った平成28年産の調査結果に基づき、次により推計した。

$$\text{全国値} = \frac{\text{平成28年産の全国値} \times \text{当年産の調査対象都道府県値の合計値}}{\text{平成28年産における当年産の調査対象都道府県値の合計値}}$$

## 7 実績精度

本調査の収穫量に係る調査結果（主産県計）の実績精度（標準誤差率の推定値）は0.4%である。

## 8 用語の解説

- (1) 作付面積とは、は種又は植付けをしたもののうち、発芽し、又は定着した延べ面積をいう。
- (2) 収穫量とは、収穫したもののうち、生食用又は加工用として流通する基準を満たすものの重量をいう。
- (3) 出荷量とは、収穫量から生産者が自家消費した量、生産物を贈与した量、収穫後の減耗量及び種子用

又は飼料用として販売した量を差し引いた重量をいう。

- (4) 統計表の「(参考) 対平均収量比」とは、10 a 当たり平均収量（原則として直近7か年のうち、最高及び最低を除いた5か年の平均値）に対する当年産の10 a 当たり収量の比率である。

## 10 利用上の注意

- (1) 統計数値については、次の方法によって四捨五入しており、合計値と内訳の計が一致しない場合がある。

原 数		7桁 (100万以上)	6桁 (10万)	5桁 (1万)	4桁 (1,000)	3桁以下 (100以下)
四捨五入する桁（下から）		3桁	2桁		1桁	四捨五入しない
例	四捨五入する前（原数）	1,234,567	123,456	12,345	1,234	123
	四捨五入した数値（統計数値）	1,235,000	123,500	12,300	1,230	123

- (2) この統計表に掲載された数値を他に転載する場合は、「平成30年産春植えばれいしょの作付面積、収穫量及び出荷量」（農林水産省）による旨を記載してください。

## 11 その他

この資料（平成31年2月5日公表）の数値は、概数値である。確定した詳細な数値は、ホームページに掲載（本年12月予定）するとともに、その後刊行する『平成30年産野菜生産出荷統計』に掲載する。

なお、公表した数値の正誤情報は、ホームページでお知らせする。

## 【ホームページ掲載案内】

各種農林水産統計調査結果は、農林水産省ホームページ中の統計情報で御覧いただけます。

【 <http://www.maff.go.jp/j/tokei/> 】

この結果は、分野別分類「作付面積・生産量、被害、家畜の頭数など」、品目別分類「野菜」の「作況調査（野菜）」で御覧いただけます。

【 [http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou\\_yasai/index.html#y5](http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/sakumotu/sakkyou_yasai/index.html#y5) 】

## 【関連リンク】

野菜関係ページ:農林水産省>組織別から探す>生産局>園芸作物（野菜・果樹・花き）>野菜のページ  
<http://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/yasai/>

### お問合せ先

#### 本統計調査結果について

農林水産省 大臣官房統計部  
生産流通消費統計課 園芸統計班  
電 話：(代表) 03-3502-8111 内線3680  
(直通) 03-6744-2044  
F A X: 03-5511-8771

#### 農林水産統計全般について

農林水産省 大臣官房統計部  
統計企画管理官 広報普及班  
電 話：(代表) 03-3502-8111 内線3589  
(直通) 03-6744-2037  
F A X: 03-3501-9644



政府統計

政府統計の総合窓口  
(e-Stat)  
<http://www.e-stat.go.jp/>